



世界から白石市に寄贈された作品（右から、彫刻家アンドレア・ロマンゾさんによるピアノの彫刻、画家オデット・ルセルフさんによる中国の墨を使ったデッサンと13歳の日系少女画家カーヤ・バランさんがデザインしたカードケース、画家スザンナ・ナジーさんによるリスト肖像画版画）



(左上) フランツ・リストの「ラ・カンパネラ」(バガニーニ作曲)を弾く近藤由貴さん (右上) アラム・ハチャトゥリアンの「トリオ」。クラリネット・ヴァイオリン・ピアノのアンサンブルがキューブコンサートホールに響き渡る



演奏会は、ペーラ・バルトークの「コントラスト」でスタート。アラン・ダムミアンさんのクラリネットと矢野玲子さんのヴァイオリン、近藤由貴さんのピアノが一体となって、音楽の世界に観客を引き込んだ

ークラリネット演奏指導に参加してー



白石市民吹奏楽団  
秦 俊夫さん (柴田町)

片足で立って吹く練習法には驚きましたが、リラックスして吹くことの大切さをあらためて感じることができました。



(上) 白石での開催に尽力された実行委員長の西川浩樹さん  
(左) 演奏終了後、観客から花束を受け取るアラン・ダムミアンさん



演奏会当日にもかかわらず、熱心にクラリネットの演奏指導をするアラン・ダムミアンさん

白石市民吹奏楽団  
大村 里子さん (大河原町)

上手に吹くためのコツなど、子どもたちに教えるときの参考になりました。今日の指導を早速実践したいと思います。



東日本大震災の犠牲者の冥福を祈って 傑山寺で「震災供養大茶会」

演奏会と同日、京都・大徳寺別院、徳禪寺の橘宗義住職を迎え、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈る「震災供養大茶会」が傑山寺本堂で行われた。傑山寺の麻生大俊住職と白石刈田仏教会(疋田正應会長)の僧侶12人の説経に合わせ、法要に訪れた約80人の参加者が犠牲者を供養した。橘住職は「2011年



1\_犠牲者の冥福を祈りながらお茶を味わう参加者 2\_碧水園を通して白石と縁のある橘宗義住職 3\_橘住職が書かれた書「喬雲翔龍」



喬雲翔龍 (いつうんしょうりゅう)

「喬雲」とは「めでたい雲」という意味。中国の文学者・左思は魏・呉・蜀を題材にした書物「三都賦」の中で、仁政が布かれ徳治が行われると喬雲や翔龍といった瑞祥(めでたいことが起こる前兆)が現れると書いている。橘住職は、喬雲や翔龍といった瑞祥が出現する世の中になるよう祈念して書かれた。

を表す漢字が「絆」と発表されました。われわれが絆を深め合って支援の輪を広げていきたいと思えます」とあいさつ。引き続き行われた茶会では、約500人の参加者が犠牲者の冥福を祈りながらお茶を味わった。大徳寺は千利休の菩提寺で、碧水園の茶室は大徳寺の立花大亀老師によって名付けられた。



演奏終了後、会場から演奏者の方に惜しめない拍手が鳴り響いた。右から、実行委員長の西川浩樹さん、アラン・ダムミアンさん(クラリネット)、綱場千晶さん(クラリネット)、佐久間晃子さん(ピアノ)、近藤由貴さん(ピアノ)、矢野玲子さん(ヴァイオリン)

東北の人々に音楽の力を届けるため、世界的に活躍する音楽家たちが白石市に集う！  
ー震災復興支援国際交流演奏会〈F・リスト200年の祈り〉ー

3月5日、震災復興支援国際交流演奏会(F・リスト200年の祈り)(同実行委員会主催)がホワイトキューブで開催された。ハンガリー生まれのピアノ・作曲家であるフランツ・リスト(1811年〜1886年)は、27歳の時、ドナウ川流域を襲った洪水災害に際して被災者支援のためのチャリティコンサートを開催し、多大な寄付を行った。  
東日本大震災が起きた2011年はリスト生誕からちょうど200年。リストの遺徳を受け継いだ世界的音楽家たちが京都やパリ、ウイーンなど世界各地で復興支援のための演奏会を実施する中、本市でも開催されることとなった。  
会場には大雪の中、500人を超える方々が来場。演奏会の実行委員長である西川浩樹さんは、「復興の力となるように、国内外の皆さまの力をお借りして世界各地で開催してきました。白石でも開催できることにとても感謝しています。すばらしい演奏をお楽しみください」

とあいさつ。続いて風間市長は、「行政ではなかなか補うことのできない心の傷を、すばらしい演奏を聴いて癒やしましょう。この縁をいただいた実行委員の皆さまに感謝します」と御礼の言葉を述べた。  
この日の演奏会には、現在のクラリネット界の第一人者であるアラン・ダムミアンさんがフランスから駆け付けたほか、世界で活躍する音楽家が「音楽の力を被災地に届けたい」と集結。次々と奏でられる珠玉の音色に、演奏終了後、会場から惜しめない拍手が鳴り響いた。  
また、演奏会当日の午前には、アラン・ダムミアンさんによるクラリネットの演奏指導も行われ、白石市民吹奏楽団の団員が参加し貴重な時間を過ごした。  
音楽は、人々の心に安らぎだけでなく、前に一歩踏み出す勇気を与えてくれる力がある。この日の音色は、白石のみならず宮城、東北に力を与えてくれた。震災から1年を経過してもなお、世界各地から寄せられる支援に、あらためて感謝したい。

演奏会の最後に演奏されたオリビエ・メシヤンの「鳥たちの深淵」。静寂の中、アラン・ダムミアンさんの奏でる音色が心に響いた

音楽の力を届けたい

